

□令和5年度 芭蕉翁献詠俳句 一般の部 【特選】

選者名	俳句	住所	俳号
稲畑廣太郎	せせらぎに音色重ねて河鹿笛	津市	紫雲女
稲畑廣太郎	沈みゆく太陽捉へ曼珠沙華	岡山市	伴 明子
井上 弘美	丹波太郎あすは次郎も連れてくる	国分寺市	湯口 昌彦
井上 弘美	春の夜の金泥に富士うかみたる	習志野市	鈴木 禮子
小川軽舟	水打つて午後の診療始まりぬ	江戸川区	坂本 昭子
小川軽舟	はらからと話し尽して黙涼し	堺市	濱田 昭
小澤 實	花野上空T字尾翼の軍用機	杉並区	余村 光世
小澤 實	草刈機自走す石を弾きつつ	板橋区	望月 とし江
權 未知子	兄が跳び弟が跳びこどもの日	伊賀市	森永 元希
權 未知子	山裾に戸毎のたつき秋灯	伊賀市	田端 昭子
坂口 緑志	雁渡る城に芭蕉の羈旅の笠	名古屋市	駒木 逸歩
坂口 緑志	一山は忍祖の砦鷹巢立つ	伊賀市	下村 哲朗
西村 和子	新涼や座敷箒を買ひ替へて	西尾市	齋藤 佳織
西村 和子	香水の一滴心律したる	神戸市	齊木 富子
長谷川 權	雲の峰崩れて暗き太平洋	兵庫県	小林 恕水
長谷川 權	砂漠とふ地球の裸体夏の月	志木市	真尾 公子
星野 椿	一隅に虚子之塔あり天の川	三木市	岡本 やすし

星野 椿	翁生家世塵を寄せぬ白障子	伊賀市	森中 幸枝
堀本裕樹	蝌蚪の水借りて一日の鍬洗ふ	横浜市	沼宮内 薫
堀本裕樹	道をしへ一本道を教へけり	新居浜市	大賀 康男
正木 ゆう子	どの岩も名のある岬寒怒濤	登別市	袖山 功
正木 ゆう子	霧と霧交はる峠越えて伊賀	鈴鹿市	高尾 のり子
三村 純也	鮑捕る担ひ手なしと海女嘆く	伊賀市	澤井 重正
三村 純也	早乙女の結の揃ひの赤襷	枚方市	伊瀬知 正子
宮坂 静生	熊かへす空砲ひとつ水芭蕉	品川区	本多 遊子
宮坂 静生	銀河濃し奥能登統ぶる須須神社	横浜市	有手 勉
宮田 正和	海の紺けふ深くして初茄子	志摩市	松村 正之
宮田 正和	荒行の終の蓬髪山笑ふ	川口市	滝本 史代

□令和5年度 芭蕉翁献詠俳句 テーマの部【特選】

片山 由美子	雪国の雪の白さの手漉和紙	長野市	木原 登
片山 由美子	合性といふは酒にも木の芽和	多治見市	荻原 正三